

日本大学経済学部で働くすべての皆さんへ 信任投票をお願いします

首都圏大学非常勤講師組合・日大ユニオン準備会事務局次長

日本大学経済学部非常勤講師 **今井 拓**

非常勤講師の皆さん

(2018年3月19日)

先日行われた日本大学経済学部の労働者代表選出過程における立候補者の互選において、私が信任投票候補となりました。今回の信任投票の意義は、現状の就業規則の制定、施行に反対する意見表明をおこなった私が労働者代表に選出されることで、日本大学本部がすすめる非常勤講師ゼロ化計画の一環として非常勤講師規程に導入されようとしている労契法違反の5年雇止めの撤回を求める日本大学の非常勤講師の意思を明確に示し、そのことによって、非常勤講師の大量雇止めを阻止する運動に大きく弾みをつけることです。私が労働者代表に選出されることは、年齢上限切り下げ等の不利益変更を阻止し、雇用労働条件を大きく改善していく上でも、重要な意義を持ちます。皆さんの支援をよろしくお願いします。

非常勤職員の皆さん

首都圏大学非常勤講師組合・日大ユニオンは、非常勤職員の皆さんの雇用の安定化と処遇の改善を大学改革におけるもっとも重要な課題のひとつと考えています。皆さんの支持を得て、私が労働者代表となることができれば、日本大学の草の根からの改革へ向けた大きな弾みとなります。日本大学の中でもっとも近い仲間として、私を支持して頂くことをお願いしたいと思えます。

専任教職員の皆さん

首都圏大学非常勤講師組合は、日大本部がすすめようとしている専任教員の標準担当講義数の5講座から8講座への負担増に反対し、科目数の2割削減という機械的な「教学改革」方針に反対して活動しています。非常勤講師と専任教員の皆さんと利害が対立する面が存在することを私は良く理解していますが、同時に共通する課題では、協力し合うことを当然と考えています。

今回の互選の過程では、私が労働者代表となった場合にも、36協定や専任教職員に係わる事項についての労働者代表の行動については、木暮雅夫教授の主導により合議決定することを当初の立候補者の6名で合意しています。安心して私に投票をして下さい。今回の信任投票で私が不信任になれば、再度の信任投票が行われることになり、郵送・返送の期間等を考慮すれば、労働者代表と大学側との36協定の締結は、当然に、4月にずれ込むこととなります。この点を考慮して、ぜひ私を信任して頂くをお願いします。

専任教員の皆さんの担当科目数の増加は、非常勤講師の雇止めとセットで推進されています。非常勤講師の雇止めができなくなることは、皆さんの担当科目数の増加もできなくなる、ということです。皆さんにとってもっとも大事な研究時間の確保の為には、非常勤講師全員を雇止めにしたり、5年毎に入れ替えたり、といった減茶苦茶な「教学改革」を止めさせることが必要です。

この1点で、皆さんが私を信任して下さいようお願い致します。

日本大学の教壇に立つものとして、日本大学を良くしたいという思いは、私も皆さんと一緒にあります。よろしくお願い致します。